

林大だより



第 86 号 令和 5 年 10 月 31 日

長野県林業大学校翌協会



2 学年 6 月 山の環境学 (上高地)



2 学年 6 月 北海道研修



1 学年 4 月 屋久島研修

ごあいさつ
未来を担う林大生へ

翌松会 会長 今井 康貴



今年度、会長に選任されました今井と申します。

中島校長先生を始め学校関係者の皆様におかれまして

は、新型コロナウイルス感染症による活動制限は収束に向かい、新たな生活様式で社会が動き出しておりますが、まだまだ予断を許さない難しい状況の中で学校運営をしていただき大変感謝いたします。

早いもので四月に一年生を迎え半年が過ぎました。この間、屋久島研修、北海道研修

等実施していただき実りある学習をさせていただいております。また、日々の学習の中でも多くの学びを積み重ねていくことでしょうか。

近年、地球温暖化の影響もあり、異常気象が続く各地で河川の氾濫や土砂崩壊が起り尊い命が奪われています。その原因のひとつとして考えられるのが林業の衰退から起きた森林の荒廃だと考えられています。

森林は木材の供給のみならず、国土保全、自然環境の保全、地球温暖化の防止等の多

面的な機能を通じて私たちの日常生活に欠くことのできない様々な恩恵をもたらします。豊かな森林資源を守るためには林業の活性化が必要不可欠だと思います。その中心で活躍するためにも林業大学校での学びが生かされていくのだと思います。ここにある

林業大学校、そこに通う林大生は森林環境を守る日本の将来を背負っている存在ではないでしょうか。この学校で将来に向かつて頑張っている林大生にエールを送りたいと思います。寮生活を通じ生涯の

仲間を得て、様々な立場での林大生皆様のご活躍を期待しております。

終わりになりますが、翌松会としましては林業大学校と学生を全力でサポートしていきます。保護者の皆様におかれましては引き続き今年度の翌松会の運営にご理解とご協力をお願いいたします。

安全な林業を目指して

長野県林業大学校 校長 中島 治



本校は、林業に特化した修

業期間二年の全寮制の学校として、昭和五十四年に開校して以来今年で四十五年目を迎えており、その間林業界を中心に多くの卒業生を送り出し

てきました。林業界といってもその進路は多種多様で、森林組合、公務員、民間の林業事業体・流通・製材会社、四年制大学への編入、自営等々で、それぞれの道で皆さん活躍されています。

ところで、「林業」と聞いて一般の方がイメージするのは、まずは「3K(きつい・汚い・危険)」ではないでしょうか。「危険」に絞つ

て述べれば、林業従事者の労働災害発生率は全産業平均の約十倍というデータが有ります。国や業界でも労災の低減対策をとっており、長期的には減少傾向ではありますが、まだまだ高い水準です。

このような林業界の現状ですが、本校で学ぶ学生の中には、チェーンソー等を使った現場作業に魅力を感じ、素材生産をする事業体等への就職を目指す者も多くなります。

実習では、必ず毎年何人か鉋などの刃物で手(足)に切り傷を負うというような騒ぎが発生しますが、ある意味林

業の危険性について実地に経験できたのかな、と、冷や汗を流しながらも思ったりしています。

昨今、「林業」はCO2吸収源などとして、環境面で森林の存在が注目されていることから、魅力的な職場として捉えてくれる若者も多いようです。現場作業でも高性能林業機械による工程も増え、直接人手が必要な場面が減るなど、安全面についても少しずつ改善されていますが、実際の林業現場での対策にはまだまだ課題があると感じています。

この様な情勢の中でも、林業の将来を担おうという気構えを持って本校に入学してきてくれた学生達に感謝するとともに、彼らが将来にわたって安全に林業に携わることができるよう、我々学校職員は気を引き締めて指導に当たらなければと思う毎日です。そして、今後労働災害の無い林業の実現と、学生達がその中で無事に活躍し続けることを願い、結びといたします。

林業を変える発想に期待する

木曾森林管理署長 郷原 辰実



ここ三年間は新型コロナウ

イルスの蔓延や外材の輸入が減少したことによる材木の不足、それに伴う材価の上昇、海外における諸情勢や為替の

影響による資材単価の高騰等、林業・木材産業を取り巻く情勢は目まぐるしく変化してきました。正直、現状では今後も楽観視できるものではなく厳しい状況にあることは周知の事実です。

一方、これら情勢の中においても木材製品の国際競争力の強化や木材産業の体質強化等が進められるなど、昨年公

表された令和三年の木材供給表では、国産材の供給は十二年連続で増加し、木材自給率は四一・一パーセントとなっています。平成十四年当時が一八・八パーセントでしたから、それに比して倍以上の伸びを示しており、まさに国産材時代が到来していると言えます。

今後この状況を更に確実なものとするためには川上側の供給体制を強化することが大きな課題であり、それには労働力の確保も必要ですが、根本的に現状の林業を変えてい

い職員として、澁刺と現場作業に勤しんでいます。林大で林業の基礎をしっかりと学生にご指導なさった先生方に変感謝しております。

こうした現場で働く若者を見ながら、日本の長野の旧態然とした林業・木材業を変えていかねばと、私は夢想しています。国が補助金を出しても儲けが出ない現状の林業ですが、輸入製品が安価である等の理由を挙げ嘆いているだけですが、木材は世界的には資源取引の一つです。世界に長野県は負けているので、この業界に長くいると、

様々な実証に取り組んで参ります。

林業を志し、日々研鑽を積まれている林大生の皆さんには林業を変えるための新たな発想に期待し、これからの林業のあるべき姿を追及できる社会人となることを願ってやみません。

これには既存の林業のやり方だけでなく、大胆な機械化や新技術の導入等が重要になりますが、まずは林業関係者の意識改革が必要だと思っております。

もちろん私も国有林としてもそのフィールドとこれまで培ってきた技術をベースに

業界の常識にかぶれ負け犬の遠吠えしか出なくなっています。私も異業種の友人と最近居酒屋で話していた折に、「林業界の常識は一般社会の非常識」ということに気づかされました。林業界の不採算の理由を列挙するのではなく、どうすれば出来るかという課題を列挙し、各々の課題を多方面からの協力を得ながら解決し、前進していくことの必要性を再認識させられました。

林大生の皆さんも、大きな夢をもって、夢の実現の為に研鑽を重ね課題を克服して

大きな夢を持つとう

有限会社 矢守産業 矢澤 守晃



我が社は下伊那地域で森林整備・景観整備等を主に行っている会社です。地域の山林所有者や森林組合と協働して、将来に残す山林づくりをテーマとして、皆伐再造林にも積

極的に取り組んでいます。また、JLCCやJTCC大会にも役員が積極的に参加し、林業技術の研鑽と安全で効率的な作業手順の再確認を行っています。

こんな我社にも複数の林大卒の新人が今年入ってくれました。彼らは、初めこそ山の斜面に戸惑う様子も見受けられましたが、半年経った今では山仕事に欠くことのできな



学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

林大を振り返って



1 学年 赤羽 大夢

長野県林業大学校に入学してから約半年が経ち、初めての寮生活にもだんだんと慣れてきました。入学当初は、これから二年間を過ごす初めての仲間たちとの出会いや、今までと違う環境で学業に取り組めるのかといった心配をしていましたが、今では楽しく充実した日々を過ごすことができています。

私は高校時代、林業についてあまり触れてきませんでした。しかし、将来地元で林業に従事したいと考えるようになり、林大への入学を決めました。森林に関する講義を受けるたびに、森林について

知っていたつもりになってたことがわかりました。これまでも周りを森林に囲まれ過ぎてきましたが、林大で過ごす日々は今までよりも密に森林と触れ合っているように感じます。

これからは、一年生として過ごす林大での生活も後期に入りま

す。二年生になると就職活動が始まります。今から将来を見据え、それに向けて勉強にも遊びにも全力で取り組んでいきます。



1 学年 4 月 城山登山



1 学年 5 月 造林学実習

林大に入学して



1 学年 近江澤 岳人

林大に入学して半年がたちました。初めての寮生活で不安がありました。徐々に慣れてきて楽しく生活を送っています。

授業では、一般教養と林業の専門科目があり、実習では

チェーンソーや刈払機などの林業機械の扱い方や技術、安全性を磨くことができたり、測量を行ったりなど充実していると思います。実家で林業をしているので、知っていることもありますが、知らないことの方が多く、毎授業を楽しく受けています。

寮生活では、学年混合の四人一部屋ということで、周りに迷惑をかけないだろうか、夜はちゃんと寝られるだろうかなど、様々な不安があり緊張していました。生活していくと仲間と話したり、遊ん

林大に入って



1 学年 小山 恭平

だりなど楽しいこともあり、気楽に過ごすことができています。ですが、周りとの考え方の違いであったり、生活スタイルの違いで大変なこともあります。それも学習だと思いたい頑張りたいです。

私は林業大学校に入学してからの四か月で沢山面白いことに会うことができました。四月に初めて実家を出て、初めての寮生活と他県から入学するということもあり、地元の人たちと仲良くなるか、長野県の人たちについていけるかなど、私の心の中は楽しみよりも不安でいっぱいでした。でもいざ入学してみるとみんな面白くて入学前の不安が吹き飛ぶくらい個性的な人たちがばかりで、すぐに打ち解けることができました。

共に生活していくうちに、



1 学年 5 月 測樹学実習 (演習林)

林大での生活にも慣れ、最近では伐倒班でチェーンソーの技術を磨いています。ただ技術を身に付けるのは無く、競技の練習をしています。実際にやってみると、とても難しく私は

私は林大に入学して良かったと思うことが二つあります。一つ目は、授業がとても分かりやすいことです。私は小学校に入学してから高校を卒業するまで普通科だったため、林大の授業についてい

るか心配でした。しかし、先生の授業はとても丁寧で分かりやすく、分からなかったことを質問すると親切に分かりやすく説明していただけるので、森林や林業に関する知識や技術を着実に習得することができました。

二つ目は、林大の周辺は自然が豊かなことです。林大の周辺は緑に溢れており、多種多様な動植物を見つげることができます。そのため、私の自主研究のテーマである「城山周辺に生息している昆虫の調査」では、自分の実家付近ではあまり見ることのなかった昆虫を見つげることができ、やりがいを感じています。

住んでいた場所によって違う生活観や方言が面白く、特に東京の水道水は飲めないというところが信じられていたり、東京は二十三区だけでできていると思われていたことなどに衝撃を受けました。

また長野県の「まえで」と言う方言を聞いて、「で」の必要性が分からず笑ったこともありました。

林大に入学してできた色々な面白い経験を大切にして、残りの一年半を楽しんでいきたいです。

私達が四月に入学してから半年が経ち、寮生活にも慣れてきました。最初は慣れない寮生活に不安を抱えていましたが、気さくな同期と、優しい先輩達のおかげでとても楽しく過ごせています。



1 学年 永島 龍



まだ基礎をしっかりとやっていないといけないと日々感じています。

林大での二年間を通して、しっかりとチェーンソー技術と知識を身に付けて、就職した際に即戦力として働けるようになりたいと思います。一般教養も多く、日々の学習は大変ですが、後期も四十五期の仲間と共にがんばっていきたいと思います。また、半年後には、私達が先輩となるので、後期は生活のメリハリなど意識して、過ごしていきたいと思っています。



1 学年 三宅 徹



1 学年 7 月 林業概論 (赤沢自然休養林)

二年生になって



2学年 太田 魁都

林大に入学し、早いもので一年半という月日が経ちました。入学した当初は寮生活ということもあり、不安でいっぱいでした。ですがすぐに四十四期の仲間と打ち解けることができ、この先一生つるんでいくんだろ

うなどと思う友ができました。林大の学生は様々な場所から集まるのでいろいろな性格の人がいます。人間関係の中で自分と正反対の性格の人間に刺激を受けて、普段やらないようなことに挑戦する機会が増えた気がします。なので私は林大に入学して、少しは人と

して成長できたかなと思いきす。新しい一年生も入学してきて、私たちも先輩という立場になりました。私たち四十四期の先輩方はとても面倒見がよく、とてもお世話になりました。なので私も一年生に対して尊敬していた先輩方のように接し、見本となる先輩と

なれるように努力していきたいと思います。また私は、副寮長という立場でもあるので寮全体がみんなが安心して暮らしていける空間になるように努めたいと思います。



2学年 5月 木材商業論 (東信方面)

林大生活を振り返って



2学年 塩入ヶ谷陽輝

林大に入学してから一年半、様々なことを経験し学んできました。特に二年生になつてからのこの半年間は、資格講習にインターンシップ、泊りでの校外研修が立て

続けにあったうえ、翌月中旬には地域の祭りがあつて、その後すぐ夏休みに入つてまたインターンシップと行事だらけで、それでいて授業はいつも通りあるので、忙しくも充実した日々を送ることができ

林大へ来て



2学年 遠近 深空

私が長野県林業大学校に入つて一年と半分くらいが過

しました。一つ心残りとしてあるのが入学時に自分の中で立てた「体づくりをする」という目標です。正直な

所ほとんどできておらず先延ばしにしてばかりでしたので、この後、これを書いた後すぐにでも、何でもいいので始めようと思います。

この一年半は、過ぎてみればあつという間だったと感じるような濃い日々でした。残りの半年も多くの行事があり、きつとあつという間に終わつてしまします。実際、これを書いていっているこの時も、寮祭の準備で毎日や

ぎました。私は高校の先生に「お前は視野が狭すぎる」と言われたので、視野を広げるために来ました。また、林業については、木を伐採して、環境破壊をしているんだという偏見を最初は持っていました。

入学してから慣れない中で生活はとても大変でしたが、今振り返るととても楽し

ることがあつて忙しいです。残りの半年、大切に過ごしたいです。



2学年 5月 植栽実習

い日々だと考えます。その中で森林の管理の仕方や治山の役割などの新しい知識を得たときに、私は偏見を払拭することができました。人が手を付けないと森林は機能を十分に発揮しないことや守れないものがあると知ることができました。今では、勉学に励んだおかげで、国家公務員試験に合格しました。環境省には

入れませんでした。林野庁に入ることができたので、これからも勉強や寮生活を頑張りたいです。両親にも恩返ししていきたいです。



2学年 洞地 流雲

好きこそもの上手なれ

この林大での生活も残り半年しかありません。この一年半はあつという間でした。今思えば、これまで私は十年近く林業に憧れてきました。小学生のころから山仕事に興味を持ち、高校では寮生活をしながらか森林について学んできました。高校の先生から、林大は、林業や森林のことについてさらに詳しく学ぶだけでなく、同じ林業を目指す仲間と出会うことができることを決めてもらい、林大で学ぶことを決めました。実際林大では、一年生の時、座学が多く戸惑うこともありましたが、しかし、目指す林業の形は違えど同じ志を持った仲間と出会

い、互いに切磋琢磨し多くのことを学ぶことができています。

小学生の時に興味を持ったこの仕事にいままで憧れ続けてきました。来年には実際に現場に立ちます。「好きこそもの上手なれ」まさにこの言葉通りだと思えます。あと半年の林大での生活は、来年に向けての準備と仲間との時間を大切に過ごしていきたいです。



2学年 7月 林業架線学(ワイヤー加工)

林大生活もいよいよ一年と半年を経て、残り半年となりました。ここに来るまで、いいことも悪いことも様々でした。入学したてで、まだ探り合いの中で行った屋久島研修。ここで大半の学生たちは打ち解けたことでしょう。そのほかにも、一メートル近くの穴を掘ったり、資格の講習など、厳しい実習を経て、その絆はさらに強固なものになったと思います。二学年になるとさらに実

残り半年の林大生活



2学年 吉原 奏太

習が増え、この半年間でも、上高地での泊まり込みの研修、林業架線学や、一部学生は行けませんでしたが、北海道の一週間にわたる泊まり込みの研修もあり、より過密なカリキュラムとなってきました。これから選択授業も出てきて、より実践的な授業内容になってくると思います。

授業以外にも、学生が主体となつて行う寮祭や、駅伝、雪灯りなどイベントが目白押しとなっています。この林大で得た仲間、経験は得難いもの、一生ものになってくると思っています。残り半年の林大生活、悔いの無いように生活していこうと思います。



2学年 9月 林業機械学実習

保護者のページ

絵

の

一言

はばたけ

大坪 智和



息子が林業大学校へ入学して、早いもので半年が過ぎようとしています。

初めは、期待と不安で一杯のようでしたが、今では、良き仲間、良き先生方に恵まれて、初めての寮生活を日々楽しく送っているように思います。

息子は、幼い頃よりオレングジのつなぎを着て地下足袋を履き、祖父母の農園を走り回り、時々手伝いをするような子どもでした。

高三の進路を決める際も、本人は色々悩んだようですが、最終的には、自然に囲まれた中で仕事がしたいという想いにたどり着き林業大学校への進学を決めました。

幼い頃の経験が進路に結び付き、親としても驚いています。最後に、一二年間という時間を大切に過ごし、最高の仲間を作り、感謝を忘れずに木曾の大地から大きくはばたいて欲しいと思っています。

自分の道を

小池 章仁



息子が林業大学校へ入学して、早いもので半年が過ぎました。

私たち家族は松本市に住んでいます。私共も木曾出身ですが、私も妻も木曾出身であったため、度々木曾に帰省しておりました。そんな中息子は、木曾の自然に魅力を感じて「木曾に住みたいなあ」と言うこともありました。

高校生になり、自分の進路を考える中、森林に関わる仕

一学年

六月 トップガン研修



事に興味を持ち、林大に進学する決意をしました。

無事に入学することが出来、森林に関わる仕事とは言っても、最初は漠然としていたと思いますが、少しずつその方向性が見えてきた所だと思えます。

同じ志を持った仲間と、共に学び、同じ釜の飯を食い、授業以外の時間も共に過ごす。これはとても貴重な経験で、親としても本当に羨ましい限りです。

真面目な時も、そうで無い時も、仲間と共に全力で取り組み、自ら選んだ道を進んで行って欲しいと思います。

仲間との出会いに感謝を!!

新宮 愛子



不安と緊張の中、入学してから半年が経過しようとしています。高校二年生の就業体験での林業の経験と、農業クラブで森林の整備や校外活動の経験から、三者面談で親への相談も無く「林業をやりたい！」と話してくれた時の場面が印象強く、息子が自分の意思で決めた事に感動したのを感じています。

自宅・寮への送迎での道中、車の中で勉強・寮生活・先生・仲間の事をよく話してくれます。寮の食事は美味しい、先生方は優しく、勉強も楽しいなど、時には愚痴もありつつ……。報告を聞くのが楽しみになり、楽しい日々を送っているのだろうな、と思っています。

夏休みのインターンシップの際、使用したチェーンソー

何度でもチャレンジ

高山 聡



を二時間近く丁寧に掃除している姿を見て、一つの事に集中して作業をし、道具を大事に取り扱う事は、安全な林業の仕事には必須である事を息子の姿から学び、同時にたくましく感じています。今後、仲間と共に学び成長をして欲しいと思います。

息子は、高校で土木や造園に興味を持ち始め、いろいろな資格を取る為に頑張っていました。高校卒業後は進学を希望していたため、木曾での林業大学校のオープンキャンパスにも参加し、先輩方々の素晴らしい実演も見学させてもらって感動したのを覚えています。

造園業に興味のある息子には、林大で学ぶ事は広大な知識や技術を身につけられる場だと思っています。きつとす

すべての事が初チャレンジで行き詰ってしまう事もあるかと思いますが、失敗を恐れなくて何度でもチャレンジしてほしいと思います。

学業だけではなく、新しい仲間と二年間共にする寮生活

あなたの物語を!!

山本 美幸



気付けば半年の月日が流れました。林大の入学式の後の帰宅中、それまでは無事に入学出来た事を誇らしく思い期待で胸いっぱいでしたが、電車が出発した瞬間の切なさや少しの不安で涙が溢れ出た事を思い出すと、今でもこみ上げるものがあります。

うちは代々長男が会社を継ぎ、今三代目となる主人が会社を経営しています。

私達夫婦も息子を授かった時、当たり前前に跡取りが出来たと喜んでいました。息子も

も、お互いに助けあって、誰に対しても思いやりの気持ちや感謝を忘れずに、日々を大切に過ごしてほしいと思います。林大生の二年後の成長を楽しみにしています。頑張ってください。

幼稚園で将来の夢を発表する時「〇〇商店の社長さんになる!」と言っていました。選んだ高校が林産工芸科でした。正直自然が好きだった訳ではありませんが、三年間学校に通いながら一次産業に興味を持ち、家業を継ぐ事でもなく二次産業でもない林業の道を選びました。

決められたルールではない選択に心配もありますが素敵な決断だったと思っています。

縁あって出会えた林大の皆さんとの貴重な時間を大切にしてください。

あなたの人生の物語を応援していますよ!

林業を仕事に

有村 幸子



木曾で生まれ、我が家の居間からは大きな栗の木が見え、その奥は雑木の山になります。いつも山の中にある環境の中、いつ頃から林業の道

へ進もうと決めたのか。兄も林業、後を追うように次男もまた林業を仕事にしようとしていきます。林大で専門的な事を学び、実際に見て体験する事で、山について真剣に向き合い話している姿を見ると、この道で良かったんだと感じています。

「俺は現場で働く」と言う息子。日々危険な仕事だけに、いつまでも心配は尽きませんが、自然を相手に山へ向かう姿を想像し、楽しみでもありません。まだまだ現状は厳しい中、描く仕事、林業を忘

れず、新しく変わっていく林業の担い手にもなってくれたらと思います。

多くを語る子でもなく、家が近いのに長い休みに帰省するぐらいですが、林大での学びと寮での生活は、頼もしさに気づかひが加わった、大きな成長を感じさせてくれました。

卒業まで半年程になりました。林大での生活に関わってくれた皆様や友人に感謝し、残りの日々を過ごしてほしいと思います。

息子に対する思い

鈴木 春樹



時が経つのは早いもので、今では林大二年生ですが、幼い頃から自然とふれあい、虫捕りや飼育をしている子でした。やんちゃ坊主でしたが、立派に成長してくれたと思

います。

林大では良き先生や仲間と巡り会え、また色々な体験や経験をしていることだと思います。是非とも楽しんで下さい。

残り少ない期間ですが、寮生活や学業を、真面目に楽しく感謝の気持ちを忘れずに生活し、将来の目標を持ち、自分のやりたい事に挑戦して行って下さい。応援しています。



1 学年 6 月 測量学 (コンパス実習)

自分らしく

小松 めぐみ



息子が林業に進みたいと言った時、周りの子達とあまりにも違う進路で、正直驚きました。でも、小さな頃から山や川や生き物が大好きだった息子らしい道だと、見守ることにしました。

無事に始まった学校生活。先生方には、林業の基礎や、楽しい面と危険な面、そして様々な資格を取得するためのご指導をいただき、本当に感謝しています。寮では、温かく美味しい食事を作っていただけ恵まれた環境の下、みんなで協力し合って生活したり、自然が好きで多くの友人に恵まれて、ありのまままで生き生きと充実し

た日々を過ごしている息子の姿を見ると、あの時選んだ道がこの場所でも本当に良かったなと感じます。

ここから巣立つことに不安もあるでしょうが、二年前、未知なる世界に踏み込んだからこそ今の時間があるように、これから先に出会う、今は予測できない全てのこと、また自分を成長させてくれます。だから、新しい場所で、また別の世界を見てきてください。

成功も失敗もいつか全部笑い話になりますよ。皆さんのこれからを心から応援しています。



2学年 6月 不整地運搬実技講習

あと半年

日比谷 聡



息子が林業大学校に入學してから一年半が経ちました。入學前は、集団行動が苦手な息子の寮生活がどうなるのか不安でしたが、先生や学校関係者、学生の皆様のおかげで、何の心配もなく過ごしているようで安心しております。

皆様方には本当に感謝しかありません。ありがとうございます。

家に帰ってくると多くは話しません、色々な体験をしているようで、成長しているなと感じ、とてもうれしく思います。

あと半年ほどで卒業となりますが、色々な地域から集まっているみんなと仲良くなり、休日には遊びに行くなどして楽しい思い出が出来、この先もずっと付き合いが続い

ていく友達が作れば、なお良いと思っています。

正確に生きる

森川 雅史



薄寒く湿気た福島体育館で卒業式を終え三十七年。残念ながら未だ模索の最中で偉そうに檜の教示を述べる域に至っていません。

幾多の混乱と変化を経て今があるのですが、心掛けているのは「嘘をつかない」事。

対外的な正直さは勿論の事、世間体や損得に囚われず己の本心を偽らないでいるのは至難です。

自分の可能性を最大に評価しつつ、後悔しない、言い訳をせずに済む決断をしてくだ

さい。

もう一つ、常識は疑ってかかる。造園の常識として落葉樹は休眠状態の落葉期に移植する、と教えられてきましたが、近頃老齡樹は盛夏過ぎに移される例が多くなりました。必要光合成量を貯め終え体力充分な季節に施工すれば体力消耗が少なく、術後の発根回復が早いとの事。常識は極めて不確かなものです。最後にりましたが、私と息子二人を受け入れ教え、育ててくださいました林業大学校と関係各位の皆様にご心から御礼申し上げます。



7月 真夏のオープンキャンパス (講堂)

巡り合わせ



屋久島森林生態系保全センター
塩澤 翔
(第41期生)

林大を卒業して約二年の月日が経ちました。今思い返すと様々な出来事があったなと感じます。屋久島研修から始まり、寮生活、地区のバス

技術者を
目指してください



教授
岡田 充弘

今年四月に林業大学校に異動してきて、この半年は初めての経験する仕事が多く、学生とのとても刺激がある時間になっていきます。私自身の林業大学校との関係は、林業総合センターの勤務時に林木育種に関する講義を担当させていただいたのが始まりで、昨年

檜の
アドバイ
ス

ケットボールや様々な実習等濃い時間を過ごすことができました。なかでも寮生活で学んだことは、現在でも役に立っています。

卒業後は林野庁に入庁し、最初の配属先は熊本県となり二年勤めた後、今年の四月から屋久島森林生態系保全センターに勤務しています。一年生の時に研修で訪れた島にまさか住むことになると思っておらず巡り合わせを感じました。島の生活は日々驚かさ

れることばかりで特に台風の影響は凄まじいものです。現在担当している業務の中で特殊なものとして森林環境教育が挙げられます。小中高校生に対し森林の大切さや登山指導を行っています。それだけではなく、教職員の方に対しても屋久島林業の歴史や木材の流れについて等の講義を行っています。

そんな私から学生の皆さんにアドバイスをするとしたら、無駄なことはないという

ことです。実際森林教室を行う際は樹木の名前・特徴や葉っぱ等の知識が必要になります。しかし、当時は必要ないだろと思っていたことです。今となってはもっとまじめに勉強しておけばよかったなと感じています。なんでもこの講義があるのかと思うことが私がありましたし、皆さんも感じるものが少なからずあるかと思えます。就職先、進学先でどんな巡り合わせがあるかわからないので、あんな

講義があったなと覚えておくだ

林や樹木を管理していくため

に、現在の状況を調査した上でしっかりと把握して、今後何をどのように管理を進めていくかを自らの専門知識と技術で正しく判断していくことが要求されます。

をいろいろな形で後押ししていくつもりです。「物事を理解するには、内容を自分で考えて、しっかりと確認すること」は、きつと普段の生活の中でも役に立つことですので、一度ゆっくり考えてみてください。

度までの八年間は二年生の選択科目での鳥獣対策実習の外部講師を担当させていただいてきました。しかし、しっかりと学生の皆さんと向き合うのは初めてになり、技術者として何をしっかりと伝えられればよいかを考えてみました。自分自身が、仕事に就いてから多くの先輩や、仕事で知り合った方から学んだことは、「物事を理解するには、内容を自分で考えて、しっかりと確認すること」、「仕事は何のためにするか理解してから進めること」、「知識や常識

は、技術が進むと変わっていくので、勉強はずっと続くこと」などでした。この中で林業大学の学生の皆さんに卒業までに最も身につけてもらいたいこととして、「物事を理解するには、内容を自分で考えて、しっかりと確認すること」を挙げてみたいと思います。

森林や樹木に係る仕事は、物を言わない・人間よりはるかに長寿命の樹木を主体とする集団に係る仕事であることを再認識してください。そして、仕事に就いてからは、森



林大生の活動報告

新型コロナによる学年閉鎖など、昨年度に引き続き前期も影響を受けましたが、5月の第5類への移行により、林大生と地域の皆さまとの交流も、徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつあります。ここに掲げたのはそのほんの一部ですが、今後も地域を愛し、地域に愛される林大生であってほしいと願います。

木曽こども園児との交流（4月）



4月26日、2学年が近くの木曽こども園の園児たちと「駒打ち体験」で交流しました。

みこしまくりに参加（7月）



7月23日の水無神社例大祭（みこしまくり）に、林大生18名が参加。みこしを担ぎ、熱気あふれる木曽の夏を堪能させていただきました。

オープンキャンパスで実技を披露（7・8月）



7月29日、8月27日の林大オープンキャンパスで、2学年メンバーが日頃研鑽に励んでいるチェーンソーや林業機械の操作技術を披露し、拍手喝采でした。

木曽看護専門学校との交流（9月）



9月21日、木曽看護専門学校生の皆さんとの交流会があり、お互いの学校生活を学び合うとともに、実習棟でのノコギリ体験などで交流を深めました。



林大HP



facebook



instagram



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058